

軽井沢サクラソウ会議 NEWSLETTER ニュースレター



軽井沢の自然環境を保全するボランティア団体

設立2000年

Vol.134 2025.5.1発行

町花 サクラソウ



1993年にサクラソウが町花に指定されて以来、町は「みどりの日」に約千株のサクラソウを無償配布していた。2001年「遺伝的かく乱」の危険性があるとする研究者の指摘を町に伝え、慎重な対応をお願いしたところ即座に配布は取りやめとなった。担当課の迅速な判断は「予防原則」に基づく措置であったと思うが、自然に対する敬いの心のこもった英断であった。 [須永 久]



軽井沢の四季彩便り 51

『チョウジザクラ』 写真・文 渡辺 久義(会員)

軽井沢の野道を散歩していた時に首の長い花を咲かせた木を見かけました。何だろうと近づいて見上げると一風変わった桜でした。花びらの付け根を花筒と言うのですが、ここが長いのが特徴です。横から見ると「丁」の字に似ているのが「丁子桜」の由来です。首を長くして待ち侘びた春が来た。皐月の風が戦ぐ頃に君は咲く。また春が来て、君は綺麗になった♪と私は歌う。浅間山が桜花に笑いかけ、軽井沢人は春を謳歌するでしょう。

軽井沢サクラソウ会議

記録&予定 《記録○(2~4月) 予定●(5月~6月)》

5月~6月

- | | |
|-------------------------------------|---|
| ○2月21日(金)「信州ネイチャーポジティブアプローチ」参加 | ●5月10日(土) 14:00~
「サクラソウ シンポジウム」環境課主催 |
| ○3月13日(木) 植物標本事始め① | ●5月11日(日) 10:00~11:30 「野の花さんぽ」 |
| ○3月14日(金) 草刈り・定例会 | ●5月31日(土) 18:00~ 発地観察会② |
| ○3月24日(月) 自然保護審議会 | ●6月12日(木) 植物標本事始め③ |
| ○3月25日(火) タリアセン火入れ | ●6月13日(金) 9:00~ モニ1000
14:00~ 定例会 |
| ○3月28日(金) サクラソウ自生地草刈り | ●6月14日(土) 13:00~16:00~ 第6回自然講習会
「シカ問題に取り組んで思うこと」高槻成紀先生 |
| ○4月10日(木) 植物標本事始め② | ●6月15日(日)「ボランティア見本市」社協主催 |
| ○4月11日(金) モニ1000調査・定例会 | ●6月27日(金) 9:30~ 発地観察会③ チョウ |
| ○4月12日(土) 発地観察会① | 天候により変更もあるので要確認 |
| ●5月1日(木)~31日(土) サクラソウ全町調査開始 | |
| ●5月9日(金) 9:00~ モニ1000
14:00~ 定例会 | |

CONTENTS

- 1 巻頭言／『軽井沢の四季彩便り』 51 / 記録&予定
- 2 報告／お知らせ
- 3 軽井沢に眠るサクラソウを探そう
- 4 一人でもできる生物多様性保全

- 5 サクラソウとわたし
- 6 軽井沢に眠るサクラソウを探そう
- 7 アレチウリの分布拡大傾向
- 8 コラム④／事務局から

2025 2/1

第10回「きずなフォーラム」in 塩尻

「長野県生物多様性地域戦略」制定後、県内の自然保護団体が年に1回集まる機会です。



テーマごとにワールドカフェ方式で話し合い

町から「NPO法人 生物多様性研究所あーすわーむ」、「パタゴニア軽井沢」と参加しました。ワールドカフェでお互いの活動内容を知ったり、自然共生サイトの新制度の説明を聞いたりしました。若い人たちから、刺激をたくさん受けました。

2025 2/21

「信州ネイチャーポジティブアプローチ」

長野県自然保護課からの要請で参加。長野県は「生物多様性保全パートナーシップ協定」制度を創設し、積極的に団体と企業を結び付けるイベントでした。県内11団体の一つとして参加。

サクラソウ自生地草刈り

2025 3/28



毎年の草刈りで、繁殖力旺盛のクマザサも減ってきて、刈りやすくなってきた



刈った後の片づけが、2倍も大変

植物標本事始め

2025 3/13

2025 4/10



オオイヌノフグリもスケッチし標本に

標本づくりの初心者ばかり6人で、標本の作り方を勉強しました。時間を見つけて植物標本をつくりましょう。植物標本は、素人でもできる自然の状態を示す証拠です。植物ともしっかり仲良くなれる方法です。採集日、採集場所、採集者の3つを忘れず記録しましょう。ご自宅や、サクラソウ自生地などで採集し、後世に遺せる標本を作りませんか。



INFORMATION

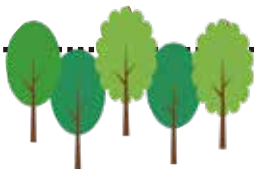
「発地トレジャーハンティング」

貴重な自然環境が残る発地地区の魅力をみんなで調べ記録しよう、という試みです。今年は、5回自然観察会を行って、「発地宝もの地図」を作り、総合文化展で発表する予定。

4月12日に第1回「カエルのくらし〜早春編〜」が行われました。以後、ほぼ毎月1回開催予定。詳しくはHPをご覧ください。（軽井沢町「みんなの力でつくるまち」活動補助金 交付事業）



石塚徹講師の話に聞き入るみなさん



A vibrant field of pink sakurasou flowers (Primula) with green foliage. The flowers are in various stages of bloom, and the background is a dense field of similar flowers stretching into the distance.

軽井沢に眠る サクラソウを探そう！

軽井沢サクラソウ会議
info@sakuraso.org

鷺谷先生が、1999年に軽井沢のサクラソウ自生地をご覧になり
「いい自生地です、大切に！」と。これがサ会議誕生のキッカケでした。
2000年、2014年、中央公民館でご講演。

一人でもできる生物多様性保全

東京大学名誉教授 鷺谷いづみ

サクラソウの保全生態学の研究を始めてから半世紀が過ぎた。最初の調査地、埼玉県の特設天然記念物「田島が原サクラソウ自生地」での繁殖生態の研究では、実験室で発芽したサクラソウを「域外保全」すべきだと思った。大学では難しいので、霞ヶ浦湖畔の丘の上に私設の圃場をつくった。その後、研究室の主なフィールドとなった北海道日高地方では、調査地が道路建設などで失われることなく大学院生たちが安心して研究できるように0.5haほどの自生地を私設のサクラソウ保護区として確保し宿泊用のログハウスも建てた。



トラマルハナバチ女王蜂がサクラソウの送粉者であることを鷺谷先生が発見した。(写真提供:鷺谷先生)

これら2ヶ所でサクラソウや野の花が健やかに育つように「植生管理」することが私の仕事になった。現役時代はあまりに忙しく「世話」が行き届かなかったが、定年退職後は心ゆくまで鎌を振えるようになった。サクラソウをはじめ野の花とマルハナバチなどの

ポリネータ、それらを愛でる私にとっての楽園がつくられつつある。このような取り組みは「コンサベーション・ガーデニング」というべきものだろう。

今のガーデニングのルーツは、ヨーロッパ諸国が競って植民地を作った時代に植民地由来の植物を有力者が庭や植物園で育て、園芸産業を振興したところにある。外来の園芸植物を化学肥料や農薬を多用して育てる今の普通のガーデニングは、人間活動が地球を支配する「人新世」を象徴する営みの一つともいえるだろう。それに対してコンサベーション・ガーデニングは、絶滅が危惧される植物やそれをめぐる生物間の関係の維持をめざす「自然に優しい園芸」で、一人でもできる生物多様性保全のための活動でもある。

四半世紀以上にわたり地域の生物多様性の保全に力を尽くしてきた「サクラソウ会議」に集う方たちは、コンサベーション・ガーデニングの意義を理解して下さるだろう。すでにお庭でそれを実践している方もいらっしゃるかもしれない。

皆で力を合わせる取り組みだけでなく一人でもできる保全の情報交換の場として、「軽井沢サクラソウ会議」のますますのご発展をお祈りしたいと思います。



鷺谷いづみ わしたにいづみ

筑波大学、東京大学、中央大学の教授を歴任。日本生態学会第12期会長。人間の経済活動の結果、急激に壊されつつある「生物多様性」をどう守り回復させるか、という問題意識の下、行政や自然保護の市民運動とも連携しながら研究し行動している。著書:『サクラソウの目第2版—繁殖と保全の生態学』『さとやま——生物多様性と生態系模様』など多数。